

2022年度事業計画

「医療的ケアに対応した地域連携ハブ拠点のモデルづくり」

事業報告書

一般社団法人 幹

■事業概要

・目的

多職種連携の強化や難病児家庭と地域住民の交流の場を通して、障害がある子どもを妊娠、出産した時点でいつでも相談できる場所があることを難病児家庭だけでなく地域住民に知ってもらい、家や病院、施設以外で居場所があると認識してもらうことを目的とする。

・事業内容

I.地域交流イベント

- 1.「幹らんど」開所式
- 2.「幹らんど」内覧会
- 3.地域交流秋まつり
- 4.講演会
 - 1)アロマセラピー
 - 2)排泄ケア研修
 - 3)食事教室(懇親会)
 - 4)子育て支援
- 5.お泊り体験会
- 6.eスポーツを通じた交流

II.意見交換会

III.広報活動

IV.先進地視察

I.地域交流イベント

1.「幹らんど」開所式の開催(2023. 5. 27)

第一部



テープカット及び記念撮影の様子

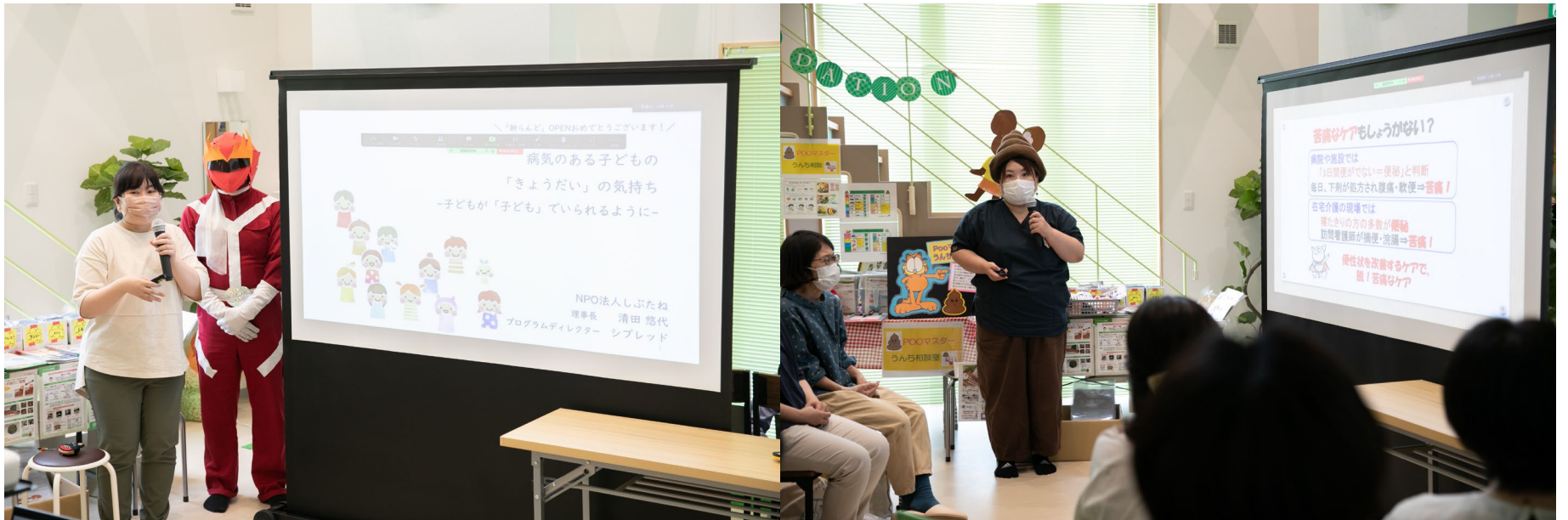


吹奏楽団による演奏とダンス

講演「テクノロジーで広がる子どもの世界」

2023年5月、難病児家庭の支援拠点として整備した「幹らんど」の開所式を行いました。和歌山市長尾花様、市議会議員古川様、日本財団常務理事吉倉様、地区自治会長髭白様をはじめとした多くの方にご参加いただきました。またママさん楽団による演奏に合わせた子どもたちのダンスの披露や、(株)アシテックオコ小林氏による講演「テクノロジーで広がる子どもの世界」などがありました。

第二部



講演：病気のある子どもの「きょうだい」の気持ち

講演：うんちの相談室

開所式終了後は一般の方々も交え、NPO法人しぶたねによる講演「病気のある子どもの『きょうだい』の気持ち」、P00マスター尾崎氏による講演「うんちの相談室」を開催しました。



ゲーム「ぷよぷよ」による交流の様子

またその講演間に「テクノロジーで広がる子どもの世界」の実践として、障害を抱えた方と子どもたちとでゲームを通じた交流を行いました。

2. 「幹らんど」内覧会の開催(2023.4.15)



ママさん楽団の演奏



演奏に合わせて踊る子どもたち

2023年4月、「幹らんど」にて利用者およびその家族をお招きしての内覧会を開催いたしました。解説なども少し交えながら、皆さんには自由に内装を見て回っていただきました。

その後は1階カフェスペースにて、のちの開所式へのリハーサルという意味もあって、ママさん楽団による演奏に合わせて子どもたちや職員らがダンスを楽しみました。

演奏会終了後は希望者に対し、プロカメラマンによる写真撮影会を開催しました。



フォトスタジオ風撮影会

3. 幹はうす・幹らんど秋まつり(2023.10.29)



参加者でにぎわう様子



「アビーロード」による生バンド演奏



催し 理学療法士によるセラピー



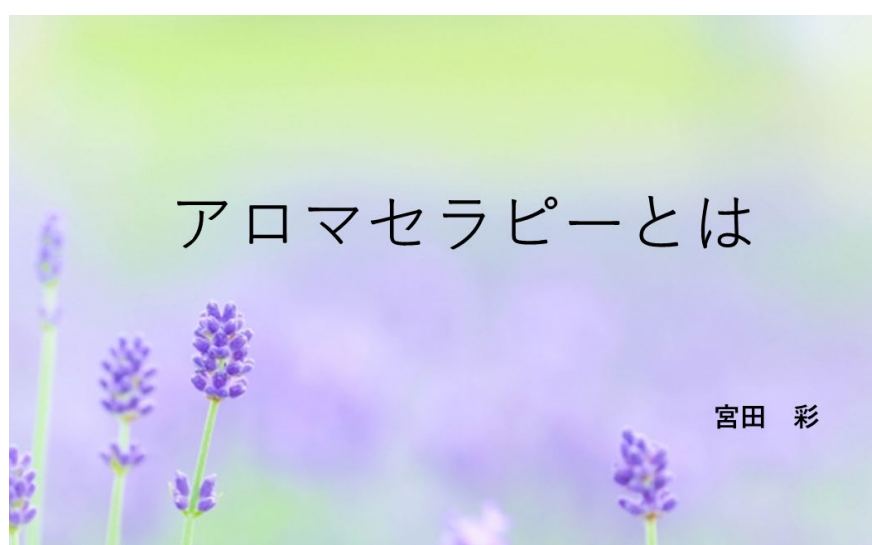
アロマハンドマッサージ

10月、「幹はうす」及び「幹らんど」にて、地域の方々をはじめ誰でも参加可能な秋まつりを開催しました。焼きたてのパンやピザ、コーヒーなどを提供する屋台、紀の川市のシンガーソングライター田頭宣和氏のバンド「アビーロード」生演奏、その他各種催しにより、天候の安定しない中でしたが大賑わいの一日となりました。

4. 講演会

1) アロマ講習会(2024.1.5)

令和6年1月「幹らんど」において医療職、介護職の皆様を対象としたアロママッサージュ講習を開催いたしました。講師に臨床アロマセラピスト・宮田 彩看護師を招いて、アロマオイルの効能、マッサージュと香りによるリラクゼーション実技を学びました。



アロマセラピーの基礎知識の講演と実技

2) 排泄ケア研修

3) 食事教室 (2024.3.16)

令和6年3月16日和歌山県立医科大学図書館棟において地域の皆様及び医療職、福祉・介護職の皆様を対象とした排泄ケア研修を開催いたしました。コンチネンスアドバイザーの榎原千秋先生を講師にお迎えし、排便のメカニズム、姿勢、気持ちよく排便出来るための食事、排便習慣を学びました。

終了後「幹らんど」にて開催された自由参加の食事教室では良い排便習慣をつけるための食事について、実際調理されたものを食べながら、腸活に良い食材を学び交流を深めました。



当日受付



講演の様子



質問に答える榎原先生



食事教室での実際の腸活食事



食事教室参加の皆様



食べて学ぶ

4) 子育て支援(2024.1.7)

難病、医療的ケアのある子どもさんの親御さん9組が参加し、看護師がフラワーアレンジメントの講師をしながら、それぞれの子育ての悩みや、病気の悩みなど共有し、意見交換をおこないました。その間、子どもたちはボランティアスタッフがおあずかりし、一緒に遊びました。



お母さん同士、フラワーアレンジメントしながら意見交換



子どもたちはのんびりスタッフと



記念撮影

5. お泊り体験(2024.2月～3月)

2組で1泊2日のお泊り体験を3回おこないました。初めて、家族から離れて、おともだち、看護師とお泊りを体験しました。

初めは緊張した面持ちでしたが、お友達と一緒に、回を重ねるごとにリラックスした表情がみられ、家族のレスパイト(負担の緩和)にもつながりました。



お家とは違ったおともだちとの夕食



食後の遊びタイム



おともだちと一緒にやすみなさい

昼間の児童発達とは違って少人数で、ゆっくりおともだちと、看護師と過ごし、ママがそばに居なくても大丈夫！
少しお兄ちゃん、お姉ちゃんに成長しました。

6.eスポーツを通じた交流



(株)アシテック・オコの協力で、地域の子どもたちと難病の子どもたちとで、eスポーツを体験しました。



(株)アシテック・オコのサポートを受け操作するこどもたち

II.意見交換会

参加者

アシテック・オコ：小林氏（作業療法士）

和歌山大学 健康保険センター：深谷氏（臨床心理士・公認心理師）

和歌山県立コスモス支援学校：崎山氏

一般社団法人幹：丸山・中谷・大石・和田・山本・白藤・内芝・岩見・
上ノ山（看護師・保育士・作業療法士など）

多職種の参加者により難病児の発達に関する意見交換会を行いました。

Ⅲ.広報活動

HPをリニューアル

<https://miki-zaitaku.com/>

パンフレット作製(500部)
施設紹介動画の作成



Ⅳ.先進地視察

福井県	一般社団法人	オレンジキッズケアラボ
香川県	一般社団法人	在宅療養ネットワーク
茨城県	一般社団法人	Burano
栃木県	認定NPO法人	うりずん
東京都	NPO法人	マギーズ東京
富山県	社会福祉法人	くるみ
岐阜県	医療法人	かがやき
石川県	合同会社	プラスぽぽぽ
	訪問看護ステーション	ややのいえ

参加者:各4名、香川8名(看護師、保育士等)にて視察を行いました。

得られた成果と今後の課題について

多職種連携の強化や難病児家庭と地域住民の交流の場を通して、いつでも相談できる場所があることを難病児家族だけでなく地域住民に知ってもらい、家や病院・施設以外で居場所があると認識してもらおうという目的に関しては確実に成果を上げることが出来たと考える。しかしこの取り組みに関しては今後も継続的に行い、より一層の地域への浸透を図っていかねばならないと考えている。

そのためにも今後の課題として、地域の皆様を始めもっと多くの方に活動を知っていただけるよう、さらなる発信力の強化が重要だと考えている。